

令和5年度免許法認定講習に係る開講科目の授業概要

No.	授業科目名	授 業 概 要
1	英語学概論 1	<p>英語の使用を可能にしている言語知識とその習得の解明を試みる学問が英語学であるが、本講習前半では、英語はどのような言語なのか、そしてどのように習得されるのかについて理解を深め、学習者の英語の発達をどう支援したらいいかを検討する。講習後半では、英語の発音に関わる音声学の知識を深め、各国の英語の発音を聞くことで発音に関わる方言差を理解する。講習のスタイルとしては、講義、グループ討議、Q&A、プレゼンテーションを織り交ぜて行う予定である。</p>
2	英語文学概論 1	<p>18世紀以降の代表的な小説を概観しつつ、文学研究の方法論、最近の文学理論による英文学史の見直しについても考える。その作業を通して、現代において文学を読むことは、哲学、言語学、記号論、文化人類学、精神分析学、社会学、政治学、歴史学等、様々な学問と接触する機会であることを理解する。また、時間の許す限り原文を参照し、英文学が書き言葉としての英語を作ってきた過程にも注目する。</p> <p>今年度はデフォーからオースティンまでを講義する。</p>
3	英語コミュニケーション概論 1	<p>AI が台頭しつつある現在、人と人とのコミュニケーションの意義は何か、デジタル媒体を通じたコミュニケーションの活用方法などについて講義を通して考える。また、英語コミュニケーション能力を高めることを目的とした教室内英語や日常的な英会話表現を用いたやり取りを体験する。さらに英語の絵本を用いたオリジナルスキットの考案やプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションの準備、発表なども講習時間内に行う。</p>
4	比較文化 1	<p>本年度の「比較文化」講習では、簡単な英語による言語活動を通じて比較文化の概念を導入してから、次の学習活動を行う：①世界のあいさつ表現や World Englishes に触れ、多文化共生社会で求められるコミュニケーション能力について理解を深める。②国内外の国際教育の取組について知見を広める。③日本の中等教育における国際教育の課題と解決について考える。④本講習の成績の材料となる模擬授業発表を授業時間内に準備し実施する。</p>
5	異文化理解教育 1	<p>内容言語統合型学習(CLIL)、教材開発の手順、評価等について理解を深めた後、受講者は、自分のこれまでの海外経験等、あるいは自分の関心がある異文化に関する内容を、平易な英単語・英文を組み入れたパワーポイント等により、異文化理解に関する短いプレゼンテーション・プログラムを作成する。講習を受講する人数により、個人あるいはグループで同プログラムを作成し、演示する。様々な教材の共有、お互いによる評価を共有することにより、異文化理解教育への理解をさらに深める。</p>
6	中等英語科指導法	<p>英語指導において重要な理論的背景知識である第二言語習得及び教育方法に関してワークショップ形式で学ぶ。特に前者においては、インプット、アウトプットとインタラクション、後者においては「協同学習」について学ぶ。これらの知識を基に、中学1年生を対象に、小学校英語からの接続を踏まえた実際の授業を開発し、その模擬授業と検討会を行う。グループワークを活用し、協同学習を協同的に学ぶ。</p>

7	英語授業づくり	<p>英語の授業において、ペアやグループ活動をより効果的にし、「主体的・対話的で深い学び」を具現化する「ファシリテーション技術」とその考え方をワークショップ形式で学ぶ。また、英語授業設計において、バックワードデザイン（逆向き設計）による単元構成に基づき、実際に Can-do、ルーブリック及びパフォーマンス課題の作成や目標設定と振り返り、及び形成的評価の充実を目指した実際の授業を開発し、その模擬授業と検討会を行う。</p>
8	生徒指導、進路指導・キャリア教育の理論及び方法	<p>本講義は、生徒指導および進路指導・キャリア教育の意義と課題を、生徒理解の理論と方法に基づきながら学び、知識と技術を習得することを目的とする。また、中等教育段階の生徒の実態と今日的課題を取り上げながら、組織的に生徒指導・進路指導・キャリア教育の計画・実施・評価をできる判断力と行動力を養うとともに、生徒や保護者との関わりにおいて公平かつ受容的な態度で接することができる能力を身につける。</p>